

令和5年度自己評価まとめ

保育の中での気づき

1, 大人からあそびの提案をしたり、2週間ごとに玩具を入れ替え（子どもの発達に併せて）たりして環境を整えることを心掛けた。

→遊びを見つけれず、走り回ったり遊びを転々とする子がいなくなってきた。しかし、あそびの環境を整えることがスムーズにいかない部屋もあるので、園内研修で今後どう進めていくかが課題。

2, その日のねらいを明確に大人が持ち（部屋の大人はそれを共有）日誌の中に、各自のねらいを書き込むことにした。（部屋の大人はそれを共有しお互いに宣言をして保育に臨む）

→その日の保育の方向性が定まり、目的を持って遊びに向かう子どもたちが増え、遊びが明日へ繋がるようになった。

保護者との対話、保育業務の中で心がけたこと

1, 保護者の方とは、送迎時に対話を心がけ、連絡ノートで日常の様子を伝え日々の様子を共有することに努めた。それでも、不安の強い保護者には面談の提案をして時間を持つようにした。

→保護者支援、子育てを共有することで不安が軽減された様子。また、信頼関係を育むことに繋がっていると感じている。

2, 職員の日課の組み立てをしてノーコンタクトタイムの保障をして事務仕事を行なう。事務室で仕事を行なう際には、入室時に終了時間を共に宣言して仕事時間の始まりと終わりを明確にし業務に向かうようにした。

→職員自身が主体性を持って仕事に向かえるようになった。休憩時間とノーコンタクトタイムの確保の実現に向けて動き出している。

3, 職員が自分を知り、苦手なことで苦しむのではなく、得意なことを生かしていく土壌作りに着手した。まだ課題はたくさんあり（自分を知る、身近な頼れる人に話をする。今後どうやって保育に向き合うかを考えて明確にしていく）今後も個別対応をしていく。

→業務改善へとつなげていく。責任者、そしてリーダーの役割と業務内容の明確化と共に、苦手なことは得意な人が引き受け、業務の循環を良くする。

組織の見える化を年度途中でも組織の組み立てをし、大人自身が日々を楽しく、職員間の連携する（助け合う）姿を子どもたちにも見て感じられるようにしていきたい。